

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502101		
法人名	有限会社 ジューム		
事業所名	グループホーム なごみ春ヶ丘		
所在地	〒802-0803 福岡県北九州市小倉南区春ヶ丘5番1号		TEL 093-931-5961
自己評価作成日	平成28年12月01日	評価結果確定日	平成29年01月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成29年01月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小倉南区役所や警察署・消防署にも歩いて行けるほどの街中でありながら緑も多く、閑静な住宅地に開設してから13年目となり、ここ春ヶ丘の地に根付いたグループホームになるよう努力してきました。今年で9回目になる町内と協賛の秋刀魚バーベキューも年々町内参加者様も多くなっております。朝からの準備にも多くの町内の方々の手伝って頂きました。また、町内での行事にも多くの声掛け参加をさせて頂いております。入居者様にとって住み慣れた地域を離れグループホームに入居しながら新天地での地域資源に参加し、ふれあい、生き生きとした表情を見ることができ、職員の励みにもなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の閑静な住宅街の一角に民家改造型の2階建1ユニットのグループホーム「なごみ 春ヶ丘」がある。地域の認知症高齢者がいつまでも家族や親しい人達に支えられ、最期まで安心して暮らせる事業所で、協力医療機関の医師の月2回の往診や看護師と介護職員が協力して小さな変化にも対応し、利用者の健康は万全である。管理者の優しい愛情と熱い思いを職員一人ひとりが理解し、グループホームだからできる介護支援について職員一人ひとりが自覚し、利用者の生きる力に繋げている。食事は利用者の嗜好を聴きながら職員が交替で調理し、利用者と職員が同じテーブルで談笑しながら楽しそうに食べる姿は微笑ましいものがある。高齢化が進む地域の中で老々介護や独居老人の安否確認を行い、地域の中で支え合う取り組みを目指し、努力しているグループホーム「なごみ 春ヶ丘」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活に密着した「理念」を掲げており、職員一同理念を踏まえて仕事にいかしている。	ホームが目指す介護理念をパンフレットに掲載し、玄関の見やすい場所に掲示し、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し、利用者が家庭的な雰囲気の中で、明るい笑顔と、自由な暮らしが出来るグループホームを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より地域密着を踏まえ町内と接しており、町内行事にも多数声をかけていただき参加している。	利用者と職員は、町内会の一員として地域の行事や活動に参加し、毎年秋に行うバーベキュー(サンマ)は地域住民の楽しみな行事として定着し、開設13年目を迎えて、地域交流の輪が広がっている。また、地域の高齢者の介護相談や安否確認を行い、地域から頼れるグループホームとして信頼関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症についての問い合わせにも気軽に訪ねていただけるよう日々努力している。また、老人会からの「講演」の依頼にも進んで参加し、施設での取り組み等紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回多くの町内の方々に参加して頂き、施設の日々の様子や活動を紹介し、助言や感想をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題等を報告し、参加者からは、質問や要望、情報等を提供して貰い、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。また、地域の方の参加が多く、会議を通して地域との交流が広がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会等積極的に連携を取りながら協力関係を築いている。	近隣の区役所や社会福祉協議会と連携を図り、地域の課題や困難事例等の解決に向けて取り組んでいる。運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状や課題を報告し理解を得て、アドバイスや情報を提供して貰い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来全てにおいて施錠することなく生活しており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	職員会議や研修会の中で、身体拘束について職員間で話し合い、全ての拘束が利用者にとどのような影響を与えるかを、職員一人ひとりが理解し、具体的な禁止行為について事例を挙げて職員間で話し合い、身体拘束をしない介護を目指している。また、玄関の鍵は日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が互いに「言動」共に気を付け、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員共に権利擁護制度について学ぶ機会を設けておりこれを必要とする方がいれはすぐに支援できる。	外部の研修会に参加した職員が、伝達研修会で職員に成年後見制度について説明し、職員は、ある程度制度の内容を理解できている。契約時に利用者や家族に制度について説明し、必要になった時には、いつでも制度の内容を説明し、申請手続きが出来る体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者・ケアマネが時間をかけて十分な説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは密にメール等で近況報告をしており、意見・要望を社協職員にご本人自ら話をする機会を設け、施設運営にいかしている。	家族面会や行事参加の時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、ホームの運営状況を報告し、コミュニケーションを取りながら家族の意見や要望、気になる事等を聴き取り、ホーム運営や業務改善、利用者の介護計画作成に反映出来るように取り組んでいる。話し合う機会の少ない家族とは、電話で話し合い、家族の意見を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や自由に発言できる環境づくりに努めている。	職員会議を定期的開催し、職員の意見や要望、アイデア等を提案して貰い、カンファレンスも合わせて実施し、充実した会議になっている。また、管理者は、日常の職員との会話の中から、意見や要望、心配な事を話し合い、速やかな解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	退職金制度等整え、職員が互いに向上心を持って安心して働けるよう整備している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所から働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	介護職員として一人一人が自信を持って仕事に携わり、生き生きと発揮できるよう配慮している。	職員の休憩室を用意し、休憩時間や勤務体制に配慮し、職員がリフレッシュして働ける職場を目指している。管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に職員を配置し、職員が生き生きと働きやすい職場環境に取り組んでいる。また、職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会等行い人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	勉強会の中で、利用者の人権を尊重する介護の在り方について話し合い、ホームの中で利用者が、安心して穏やかな暮らしが出来るように支援している。また、人権研修や啓発活動に取り組み、地域と共生していける環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修に参加することを望んでおり、互いに協力しあって研修を受ける姿勢ができています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社と情報共有に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで管理者・ケアマネがご本人、ご家族と面談を重ね、不安なく入居できるよう支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対しての不安や要望を細かくヒアリングし、安心して頂けるように努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活や身体状況を詳しく伺い、主治医ともよく相談し、必要なサービスを見極め対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の何気ない会話にも耳を傾け介護に活かしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は個々の入居者様ご家族との関係も理解し、少しでもご本人とご家族の間に良い風が流れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、くれぐれもご家族にお願いしているところであり協力して頂いている。	家族の協力と参加を得て、利用者の行きたい所や、会いたい人に会いに行く等、利用者が長年築いてきた人間関係や、地域社会との関わりが、途切れないように支援している、また、利用者の友人、知人、親戚等の面会が自由に出来るように工夫している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々皆様リビングでテレビ等楽しまれており、職員も入居者様に支障がないようにかかわっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのご家族様の訪問もあり、関係を断ち切ることなくコミュニケーションをとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に職員が入居者様に寄り添い、ご本人の意向や希望をお聞かしている。	入居時に利用者の生活環境や好み、性格等を聴き取り、アセスメントに記録し、職員全員で利用者の情報を共有し、日々の介護に反映させている。また、意志を聴き取ることが難しい利用者には、家族やベテラン職員に相談し、職員が入居者に寄り添い利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報やご家族様からのヒアリングを十分に行って日々のサービスに活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状況に応じカンファを行い、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の状態に応じ、ご家族及び主治医とのれんけいを図りより良いプランの作成に努力している。	利用者や家族と職員がコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事等を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを行い、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族と相談し、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活観察を記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りご本人及びご家族の要望に応えられるよう柔軟な対応を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の能力に応じ新聞たみや廃品回収等お手伝いして頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科週2・内科受診月2の往診を受けており、24時間医療連携も行っている。利用者様とDrとの関係も良好で診療日を楽しみにしている。	契約時に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医と協力医療機関を選択して貰い、安心して任せられる医療体制を整えている。月2回の往診が整っている主治医と看護師、介護職員が協力し、利用者の小さな変化も見逃さず、利用者の健康管理は充実している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の日々の状態を看護師に伝えておりアドバイスやひびの健康管理に役立っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関及びご家族と密に連携を図り、早期退院に向けて努力している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは早い時期に何度も意向確認を行い慎重に行っている。	ターミナルケアについて契約時に利用者や家族と話し合い、要望を聴き取っている。利用者の重度化に合わせて家族と話し合い、主治医の意見を聴きながら、今後の介護方針を確認し、利用者が安心して終末期が過ごせる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あわてず日頃の訓練を活かし、自信を持って対応できるようそなえている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも議題に挙げ地域と連携し協力体制を築いている。	年2回消防署の協力を得て防災訓練を実施し、2階の利用者全員が安全に一時避難場所で、近くの消防署から消防車が駆けつけるまで、安全に避難出来る体制を整えている。また、夜間を想定した避難訓練を実施し、夜勤者が安心して働ける体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮し対応している。	利用者のプライバシーを守る介護について職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスを実践している。また、言葉遣いや対応に注意し、利用者の暮らしが安心して穏やかに過ごせるように支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様個々の思いを把握し、自己決定できるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の暮らしのペースで1日を楽しんでいただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度外部から理髪師に来て頂き、好みのカットをして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で食べたいものがあれば献立に入れ対応している。片づけも個々の能力に応じ手伝って頂いている。	利用者の食べたい物を聴きながら、調理自慢の職員が作る手造りの料理を職員と利用者が一緒に談笑しながら食べる様子は楽しそうで、ほとんどの利用者が完食し、利用者の健康増進に繋げている。また、利用者と職員と一緒に食事の準備をする様子は、利用者の生きる力を引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量共に日々管理記録しており、その方にあった支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と放談しながら個々のケアをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや促しにより失敗なく安心して排泄ができるように支援している。	トイレで排泄することや、オムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる力に繋がるので、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを把握し、医師の指示に従ってケアをしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を見ながら支援している。また、血流の悪い方には足浴も行っている。	入浴は利用者の体調や希望に配慮し、いつでも入浴出来る支援を行っている。湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者と職員がゆっくり話が出来る貴重な時間と捉え、思いや意向を聴き取っている。入浴を拒む利用者には、職員が代わって声掛けし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的や注意点を把握できるよう個々のカルテに記載している。また、生活習慣改善で服薬量の軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみを見つけ出し、支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、車を使って季節を感じるまでドライブしたりしている。また、広い庭があるのでいつでも外の空気には触れる事が出来る。	利用者の状態に合わせて、散歩や買い物、ドライブに出かけ、利用者の気分転換に取り組んでいる。また、ホームの日本庭園で日向ぼっこをしたり、お茶を飲んだりして楽しみ、穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、外食や買い物に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて支援しているが基本的にはご家族にお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存住宅を利用している為見慣れた環境でもあり、初めて来られた方でも玄関での拒否は一度もない。庭もあるため季節に応じた花も咲き楽しんで頂いている。	民家改造型の建物は、日本庭園を眺めながら季節を五感で感じ取り、建物内はアットホームな雰囲気の中で、利用者と職員がゲームや体操で盛り上がり、セラピー犬に癒されながら、明るくて暖かい環境の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えをするなどして気分転換できるよう支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた私物等お持ちいただき安心して生活ができるようご家族と十分に相談し工夫している。	家族や関係者の協力を得て、利用者のお気に入りの家具や寝具、ソファ、鏡、家族の写真等を持ち込んでレイアウトし、利用者が安心して穏やかに暮らせる雰囲気にして、居心地の良い居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮し、日々の自立した生活が送れるよう工夫している。		